

令和5年度 東京都立北園高等学校
推薦に基づく選抜

小論文

注意

- 1 問題は、

 から

 までで、6ページにわたって印刷してあります。
- 2 検査時間は50分で、終わりは午後1時20分です。
- 3 声を出して読んではいけません。
- 4 答えは全て解答用紙に明確に記入し、**解答用紙だけ**を提出しなさい。
- 5 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 6 **受検番号**の下4けたを解答用紙の決められた欄に書きなさい。
(受検番号の上3けたは印刷してあります)
- 7 句読点「、」「。」、かぎ「「」「」」は、それぞれを1字に数えなさい。
また、下の【例】のように、アルファベットの大文字は全角（1マスに1文字）、
算用数字とアルファベットの小文字は半角（1マスに2文字）扱いとして書きな
さい。

【例】

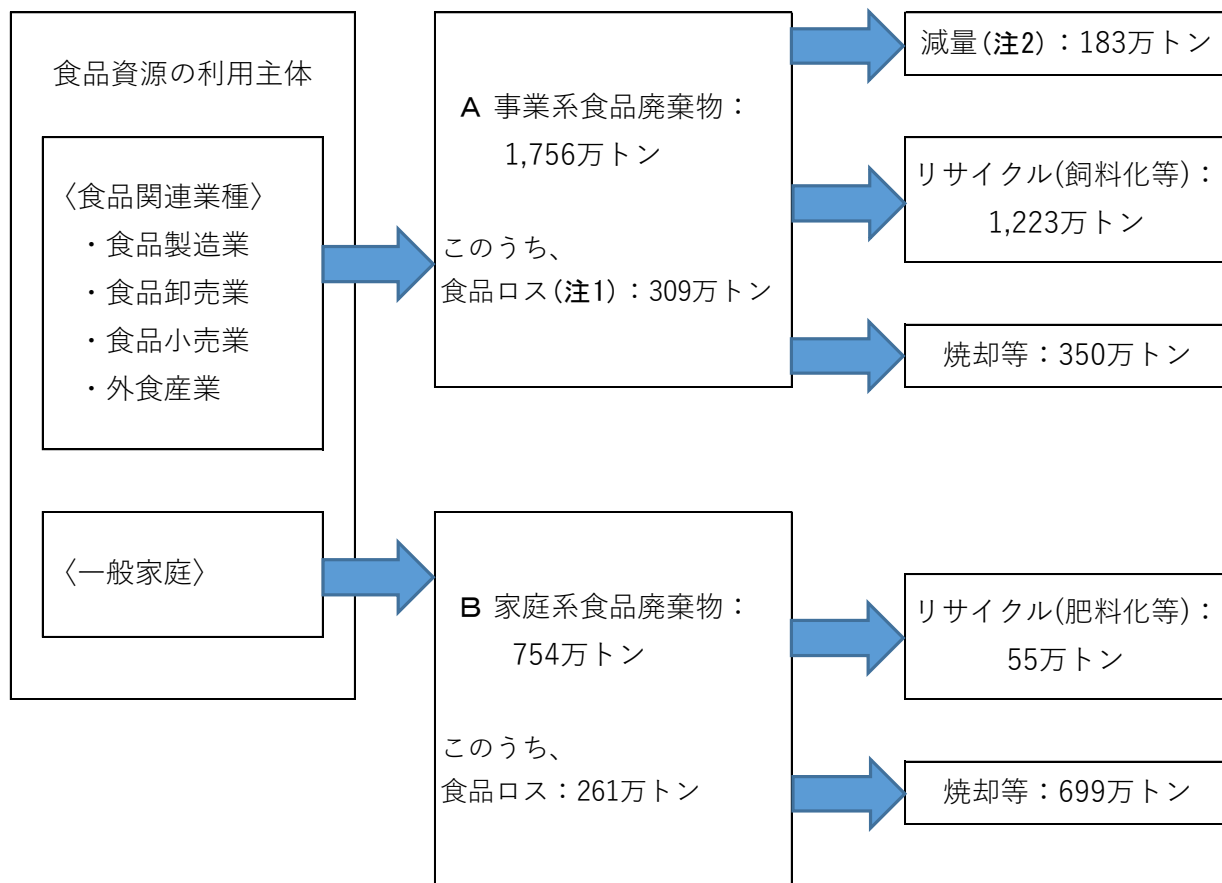
33	4	kg		2.5	%		T	ok	yo
----	---	----	--	-----	---	--	---	----	----

問題は、次のページから始まります。

- 1 食品廃棄物には、事業系食品廃棄物と家庭系食品廃棄物の二種類がある。食品製造業、食品を小売業に卸す食品卸売業、食品を消費者等に向けて販売する食品小売業、レストラン等の外食産業など、食品に関連する業種から出る食品廃棄物を事業系食品廃棄物といい、また、一般家庭から出る食品廃棄物を家庭系食品廃棄物という。

資料1は、令和元年度の食品廃棄物の利用状況について示したものである。これを読んで、後の問に答えなさい。

資料1 食品廃棄物の利用状況



(農林水産省「食品廃棄物等の利用状況等」令和元年度推計より都立北園高等学校が作成)

- (注1) 食品ロスとは、まだ食べられるのに廃棄される食品のことである。令和元年度の事業系食品廃棄物のうち309万トン、家庭系食品廃棄物のうち261万トンが食品ロスにあたる。
- (注2) 減量とは、脱水や乾燥によって重量を減らすことである。

問1

- (1) A「事業系食品廃棄物」とB「家庭系食品廃棄物」を同じ重量だけ処分した場合、資料1に基づいてAとBを比較すると、どちらがより地球温暖化につながると考えられるか。AまたはBの記号で答えなさい。
- (2) (1)の判断理由を、根拠となる数値を示して説明しなさい。

2 以下の資料2～4を読んで、後の各問に答えなさい。

資料2は、平成29年度の食品に関連する業種（A食品製造業・B食品卸売業・C食品小売業・D外食産業）の流通過程において発生している食品廃棄物の利用状況を示したものである。この食品廃棄物の中には食品ロスも含まれている。

資料2 食品関連事業における食品廃棄物の利用状況

(単位：万トン)

	食品廃棄物の 年間発生量 (総計)	リサイクル (合計)	リサイクル (内訳)					減量	焼却等	その他	
			飼料	肥料	メタン (注1)	油脂及び 油脂製品	燃料等				
A	食品製造業	1,411	1,125	880	170	46	27	2	161	87	38
B	食品卸売業	27	15	4	9	1	2	0	1	8	2
C	食品小売業	123	47	20	15	3	9	1	0	75	0
D	外食産業	206	42	10	20	1	11	0	2	162	1
	計	1,767	1,230	913	214	51	49	3	164	332	41

(農林水産省「食品廃棄物等の発生量及び再生利用等の内訳」平成29年度実績より都立北園高等学校が作成)

・資料の数字は小数点以下の数字も整数に直しているのので、総計・合計と内訳の計が一致しないことがある。

(注1)メタンとは、メタンガスとメタン発酵残渣^{ざんさ}を指す。メタンガスは、物質が微生物によって分解される時に発生し、発電に利用できる。また、メタン発酵残渣は、微生物の食べ残しを指し、肥料に利用できる。

資料3の(イ)は、食品の流過程において慣習として行われている「1/3ルール」を説明したものであり、資料3の(ロ)、(ハ)は、それぞれ「1/3ルール」に変更を加えた案である。

(イ)～(ハ)は、賞味期限が6カ月の食品を例としている。

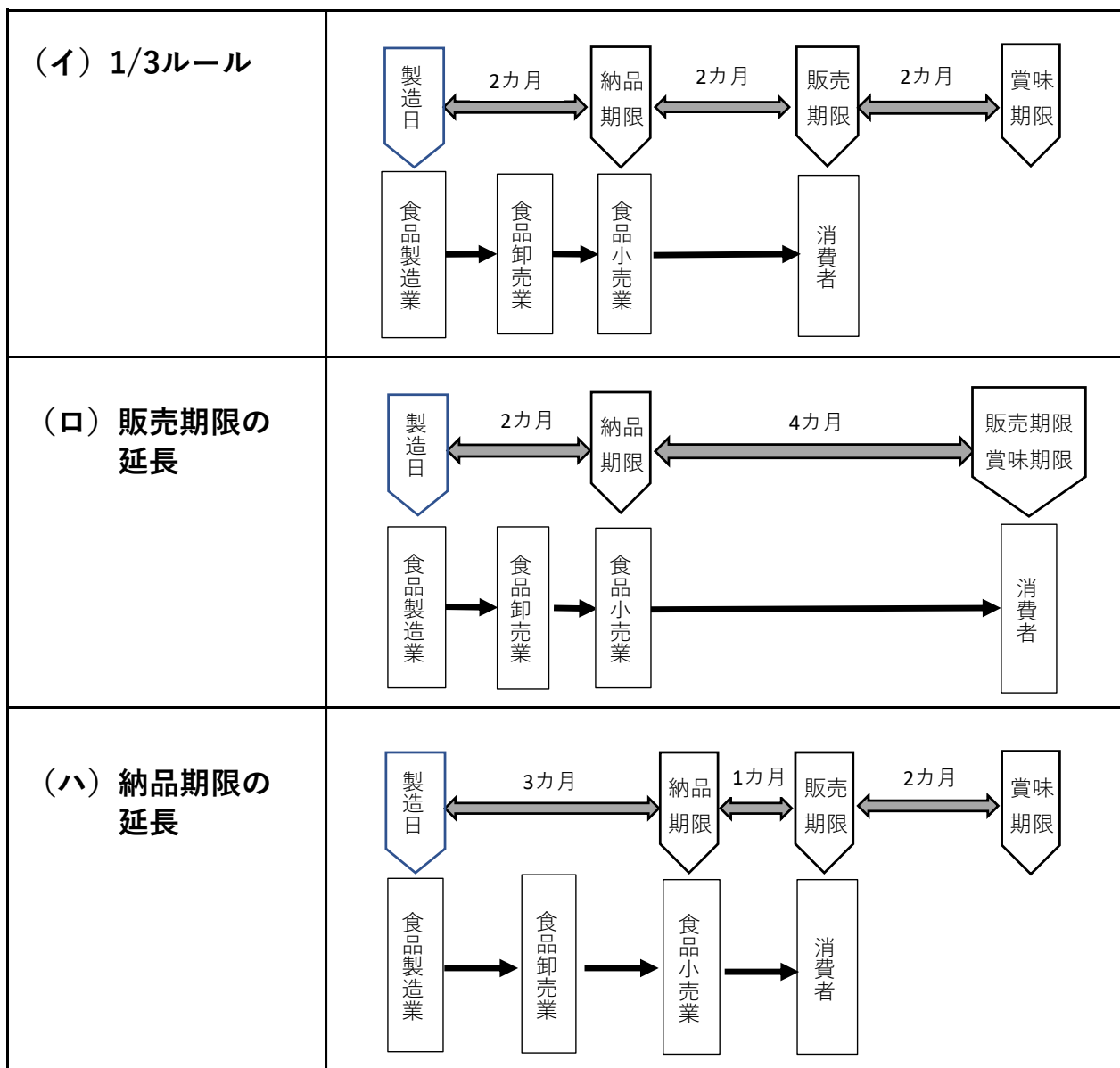
(イ)の「1/3ルール」では、例えば令和4年6月に生産された食品の場合、食品卸売業者は、賞味期限の1/3に当たる令和4年8月までに食品小売業者に納品しなくてはならない。8月までに納品されなかった食品は、賞味期限まで4ヵ月残っているにもかかわらず廃棄される。

同様に、食品小売業者は、賞味期限の2/3にあたる令和4年10月までに消費者に販売しなくてはならない。10月までに販売されなかった食品は、賞味期限まで2ヵ月残っているにもかかわらず廃棄される。このように食品卸売業と食品小売業の段階で食品が廃棄されている。

(ロ)は、食品小売業者の販売期限を賞味期限当日まで延長し、食品小売業者が販売する期間を2ヵ月から4ヵ月にするという案である。

(ハ)は、食品卸売業者の納品期限を3ヵ月に延長し、食品小売業者が販売する期間を1ヵ月に短縮するという案である。

資料3 1/3ルールと販売・納品期限の延長を説明したもの

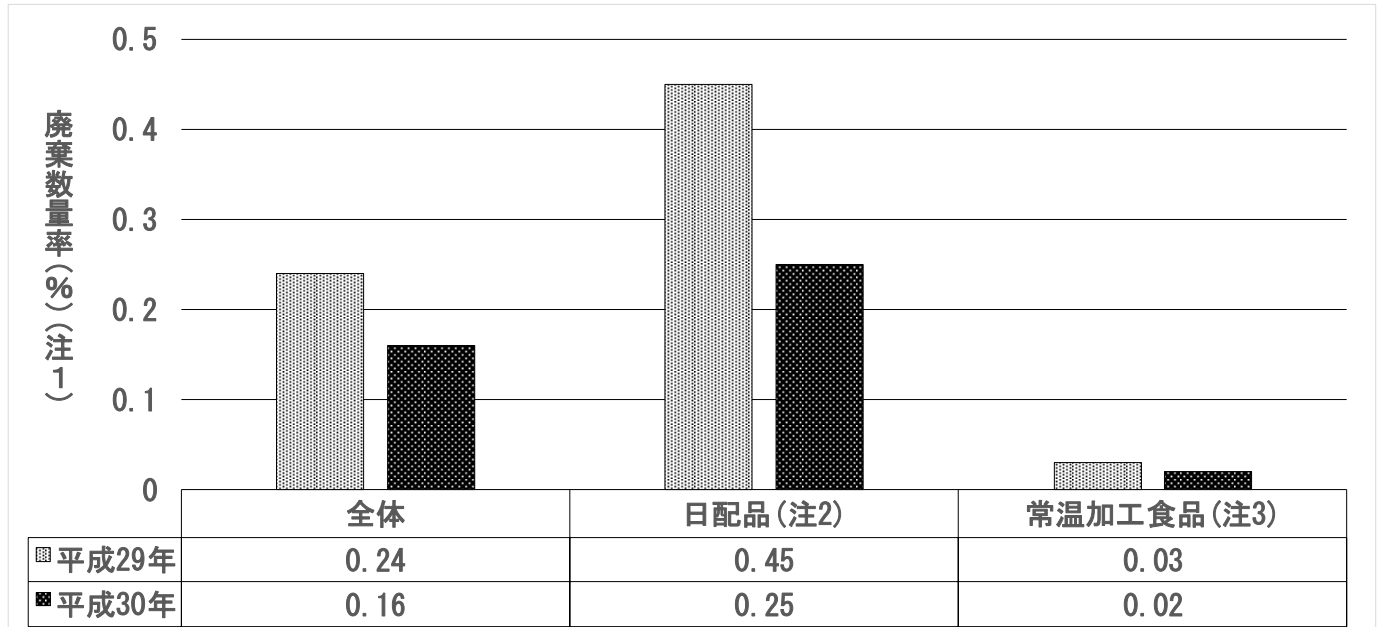


(農林水産省「1/3ルール等の食品の商慣習の見直し」より都立北園高等学校が作成)

資料4は、平成30年度に京都市内の食品小売業において行われた、食品ロスの削減効果を検証するための社会実験の結果を示したものである。

その社会実験とは、一部の加工食品を対象として、各小売店舗で定められている販売期限を、賞味期限・消費期限当日まで延長し、食品廃棄数量を実験前の平成29年度と比較するというものである。この結果、この方法は食品廃棄数量の削減に効果があり、また、売上げに与えるマイナスの影響がないことがわかった。食品廃棄数量の削減は、食品ロスの削減につながると考えられる。

資料4 食品ロスの削減効果を検証するための社会実験の結果



(京都市「販売制限の延長等による食品ロス削減効果に関する調査・社会実験報告資料」より都立北園高等学校が作成)

(注1) 廃棄数量率 (%) とは、 $\text{廃棄数量} \div \text{売上数量}$ (売上数量に対し廃棄数量がどの程度発生したかを示す指標) である。

(注2) 日配品とは、小売店舗に毎日配送される食品を指し、この実験の対象となったものは、和生菓子、洋生菓子、食パン、菓子パン、豆腐、納豆、かまぼこ、牛乳・乳製品である。

(注3) 常温加工食品とは、常温で保存が可能な加工食品を指し、この実験の対象となったものは、ドレッシング、(生菓子以外の) 菓子である。

問1 資料2に基づいて、食品に関連する各業種 (A食品製造業・B食品卸売業・C食品小売業・D外食産業) を、年間の食品廃棄物におけるリサイクル率が高い順に並べ替えなさい。A～Dの記号で答えること。

問2

(1) 資料2と資料4に基づいて、資料3の(口)と(ハ)を比較すると、どちらがより多く食品廃棄量を削減できると考えられるか。(口)または(ハ)の記号で答えなさい。

(2) (1)の判断理由を、根拠となる数値を示して、150字以上200字以内で説明しなさい。

- 3 以下の資料5、6は、東京都にある〇〇火腿株式会社で製造されたソーセージに関するものである。これらを読んで、後の問に答えなさい。

資料5 ソーセージのパッケージの表示

名 称	ポークソーセージ
原材料名	豚肉(アメリカ、チリ、メキシコ) 豚脂肪(アメリカ、カナダ、メキシコ)
内 容 量	100g
賞味期限	20XX. X. XX
加 工 者	〇〇火腿株式会社・東京工場 東京都△△区△△4-14-1

資料6 ソーセージの原材料調達から購入後の保存・調理等までの各段階で排出される温室効果ガスを二酸化炭素に換算した量で示したもの

(1袋100gあたり)

原材料調達から購入後の保存・調理等までの各段階	原材料調達	生産・加工	流通・販売	購入後の保存・調理等
二酸化炭素排出量	240g	77g	21g	58g

- 問1 資料6からは、原材料調達段階と流通・販売段階の二酸化炭素排出量には大きな差があることがわかる。この差は主にどのようなことが原因であると考えられるか。資料5、資料6に基づいて、75字以上100字以内で説明しなさい。

- 4 食品ロスが発生する原因と、それを解消するための方法を、消費者の立場で考え、150字以上200字以内で述べなさい。以下の条件1～4に従って書くこと。

条件

- 1 二段落構成にしなさい。
- 2 第一段落では、食品ロスが発生する原因を1つ挙げ、第二段落では、それを解消するための方法について述べなさい。
- 3 第二段落で述べる方法については、現状をふまえ、ある程度実現可能な方法を述べなさい。例えば、「現在の科学技術のレベルから見て、近い将来では実現不可能なもの」等の内容は不可とする。
- 4 書き出しや改行の際の空欄、句読点「、」「。」、かぎ「[」「」」なども1字に数えなさい。